

## ハング競技委員会議事録

☆日時

2017年2月11日

☆場所

トノエアーション

☆参加者

板垣(委員長)、牟田園、野尻、田中、鈴木

大沢

☆議事録

鈴木

☆議題

1. normal time

2月のCIVL総会での決定事項「2017年5月以降、normal timeが1.5h以上のカテゴリⅡ大会のみWPRSに反映する」を受けて今後日本のシリーズ戦ではどう対処するか。

1) 来年以降、日本のHGシリーズ大会ではどうするか。

案

- ・全大会1.5に統一する
- ・カテゴリⅡ大会のみ1.5にする
- ・今まで通り1.0のままいく

過去の大会の成績でゴール者が出たタスクのゴール時間とタスク距離を考察した。

ゴール者が出たタスクでタイムが1h30m以上のタスクは約5割だった。

大前提として「競技委員会が目指す方向性」を確認。

第一に、競技者を増やす考え方を重視し、大会参加者の満足度を得られるタスクを組むことを競技委員会の指針とする。

結論

多数決で「全大会1.5に統一する」に決定(4票)

2) 来年以降の付随ルールを作るか？

案

- ・DQを0.9で割る。ただし、最大値を1とする。
- ・ヒート制に計上するポイントはタスク得点をDQで割ったものとする。ただし、DQ0.9以下のタスクは一律0.9とする。
- ・ノーマライズしない

normal timeが1.5hになることにより、タスク距離が長くなるのを防止したい。

ゴールタイムが1h3mであるとするDay Quality(Time Validity)が0.9になることから、

ヒート制に計上するポイントを0.9で割ることで今までに限りなく近いポイントが付く。

これによりタスク距離が長くなることを防止できる。

結論

・ヒート制に計上するポイントはタスク得点をDQで割ったものとする。ただし、DQ0.9以下のタスクは一律0.9とする。(5票)

※同様の理由から世界選手権選抜ランキングのポイント計算式の大会有効率に使用するデイクオリティを

デイクオリティ' = デイクオリティ / 0.9 (ただし、最大値を1とする)

とする。

3) 新ルールは2017年5月に施行されるが、日本としてはnormal time 1.5hへの変更をいつから施行するか？

結論

・2017年中のカテゴリⅡ大会はnormal time 1.0hでも認めてもらいたい旨をCIVLにメールを送る。

4) CIVLへの要求が認められなかった場合、3/10まで回答が無かった場合はどうするか？

- ・2017年1月から施行 カテゴリⅡの大会を増やす方針から
- ・2017年5月から施行
- ・2018年から施行 カテゴリⅡ大会が減少しても年度途中でのルール変更は避けたい

結論

・2018年から施行(3票)

## 2.増田選手からの提案

「大会申請のページが分かりづらい」「大会の報告書などが現在の形式と合っていない」  
上記の理由から申請書、報告書の修正を増田選手が叩き台を作成して提出したい。

## 結論

宜しく願います(5票)

## 主な修正点

- ・大会報告書を競技委員会HPで公開する。(3/17までに作成)
- ・Dayly報告書、大会報告書の項目を取捨選択する。(3/17までに作成)
- ・大会運営マニュアルを新しく作成。(9月までに作成)

## 3.持ち帰り事項

### 牟田園

CIVLに2017年中はnormal time1.0hでもWPRSに反映してもらえるようにメールを送る。